

1章 都市計画マスタープランとは

1. 役割

都市計画マスタープランとは、都市計画法第18条の2で定める「市町村（特別区を含む）の都市計画に関する基本的な方針」です。他の分野別計画などとも整合を保ち、環境や産業、防災など、他の施策を展開するにあたっての、都市づくり分野のガイドラインとしての役割を担うとともに、多様な主体による協働のまちづくりを推進するための指針としての役割を持っています。

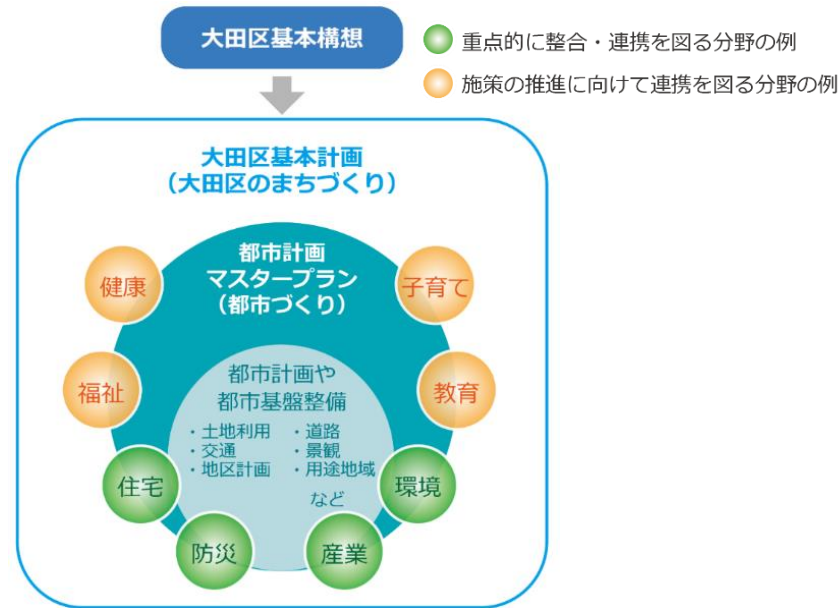


図 都市計画マスタープランで扱う内容

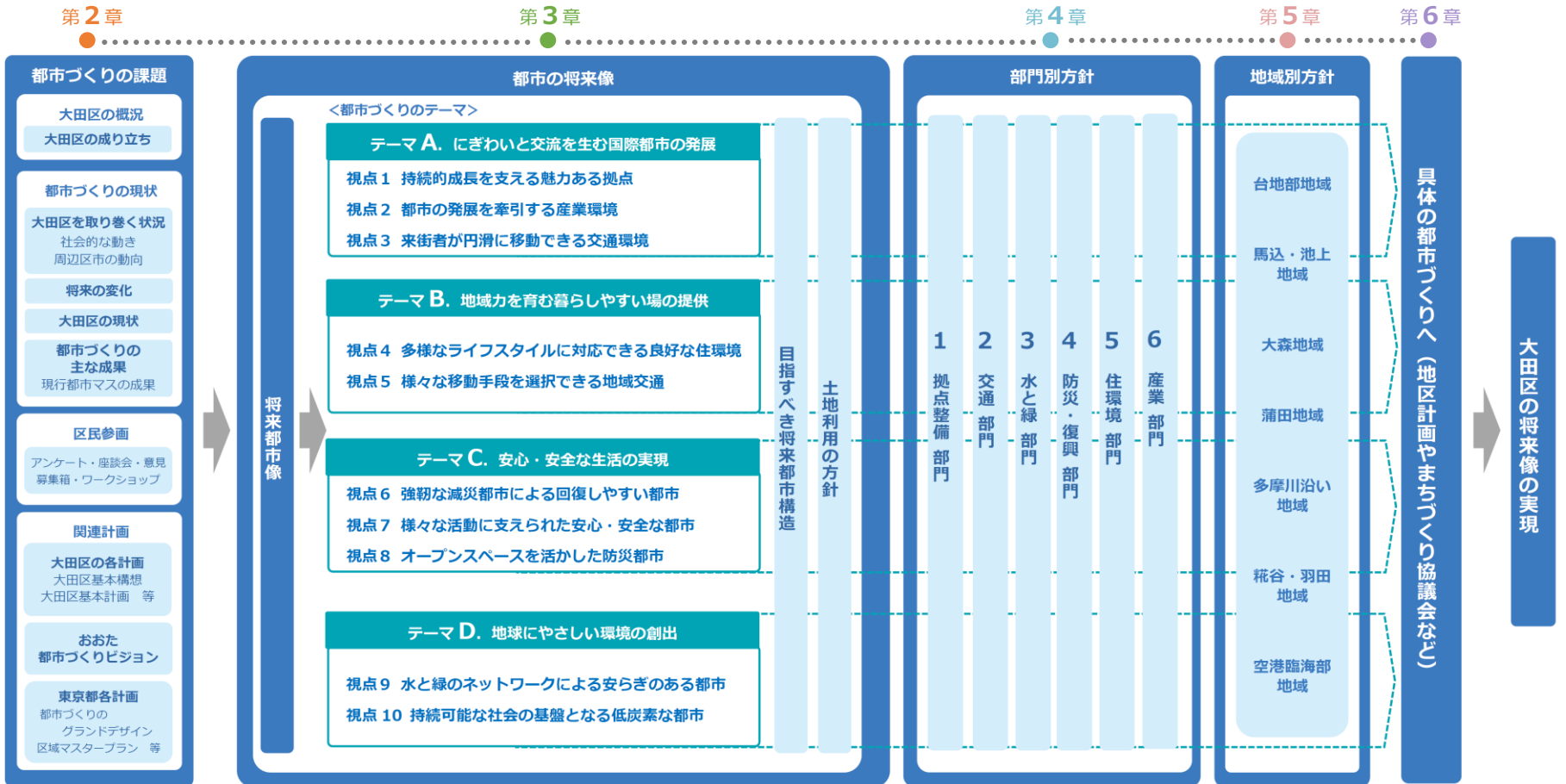
2. 目標年次

大田区都市計画マスタープランの目標年次は、概ね20年後とします。なお、今後の社会経済情勢などの変化に柔軟に対応するため、必要に応じて適宜見直します。

3. 体系

都市計画マスタープランは、東京都の方針・計画や、「大田区基本構想」や「大田区基本計画」、「おおた都市づくりビジョン」をはじめとした区の計画と連携しながら都市づくりを進めます。

4. 構成



2章 都市づくりの現状と課題

1. 大田区の概況

新型コロナウイルスによる大田区都市づくりへの影響

・新型コロナウイルス感染拡大を契機として、デジタル化の進展も相まって、人々の生活様式に大きな変化をもたらしました。これまでの課題を踏まえた方向性を基本とした都市づくりを着実に進めていく一方で、「ゆとりある空間づくり」や「多様化するライフスタイルへの対応」、「脱炭素社会の実現」など、ポストコロナを見据えた復興の視点を持って加速させていく必要があります。

2. 都市づくりの現状

大田区を取り巻く状況

- ・訪日外国人の増加による国際化の進展
- ・「コンパクト・プラス・ネットワーク」の推進
- ・新型コロナウイルス感染症の世界的流行 など

将来の変化

- ・人口は増加基調だが、総人口に対する老年人口の割合が増加
- ・自動運転など各分野の技術革新の進展 など

大田区の現状

- ・羽田空港の重要性が高まり世界に開かれた賑わいある拠点としての発展が期待される
- ・公共施設の老朽化の進行 など

都市づくりの主な成果（地域）

- ・蒲田駅周辺再編プロジェクトの進捗
- ・補助第28号線（池上通り）の整備促進
- ・羽田イノベーションシティまち開き など

2章 都市づくりの現状と課題

3. 主な関連計画

大田区

- ・大田区基本構想（平成20年10月）
- ・新おおた重点プログラム（令和3年3月）
- ・おおた都市づくりビジョン（平成29年3月）など

東京都

- ・都市づくりのグランドデザイン（平成29年9月）
- ・都市計画区域の整備、開発及び保全の方針（都市計画区域マスタープラン）（令和3年3月）

4. 区民参画

都市計画マスタープランの改定にあたって、大田区の未来や地域のまちづくりの方向性などを、大田区に関わる多くの人（住む人、働く人、学ぶ人など）とともに考え、意見を伺う機会として区民参画を実施しました。

区民から頂いた意見やアイデアについては、都市づくりのテーマやテーマ別のイラスト、地域別方針などに反映します。

〔区民参画のプロセス〕



5. 都市づくりの課題

都市づくりの現状と関連計画を踏まえ、都市づくりの課題を以下の通り整理します。新型コロナウイルス感染症の流行が拡大し、新たな都市づくりの課題が顕在化しました。ただし、都市づくりは10年、20年の単位で考えるものでもあり、感染症の見通しも不透明であることから、新たな課題に対しては状況変化に応じて柔軟に対応します。

〇活力

大田区は工業や商業を主体とした産業都市から、住宅を中心とした都市に移行しつつあると考えられます。地域特徴を踏まえ、産業が活動しやすい環境を維持し、活力ある都市活動を支えることが課題です。周辺区市における都市づくりが進む中、大田区の有するポテンシャルを活かした広域拠点性の向上が求められます。そのため、中心拠点における都市づくりの推進と相互の連携や、持続的な成長に資する活力あふれる拠点の形成、質の高い都市空間による魅力向上が必要です。また、職住が近接し、居住の場、働く場、憩いの場など様々な機能を備えるなど、多様な働き方に対応した市街地整備が求められます。

〇国際化

訪日外国人の増加による国際化が進展しており、多様なニーズに対応した国際交流拠点都市としての都市づくりの推進が必要です。

〇文化・観光

観光資源になりうる地域の魅力創出と回遊性の向上や、多様な文化との共生を促す都市づくりが必要です。また、区民や周辺区市からの来街者に向けた近距離旅行の受け入れ場所の充実、観光資源の創出が必要です。

〇地域（拠点）

少子高齢化が進展し、人々のライフスタイルや価値観がさらに多様化する中、様々なニーズに対応し生活を支える拠点の魅力向上が求められます。

また、将来を見据えた効果的・効率的な公共施設等のマネジメントが必要です。

〇地域力（協働）

幅広い年齢層の人々が活躍できるよう地域力を育む区民活動の充実が求められます。

〇生活（福祉・子育て等）

暮らしやすさをさらに磨き上げる良質な住宅ストックの形成、スポーツ・健康まちづくりの推進、生活ニーズの多様化を捉えた生活利便性の向上が必要です。また、「どこでも、誰でも、自由に、使いやすく」という視点から、できるだけ幅広い人々を想定したユニバーサルデザインの都市づくりが求められます。

〇産業

先端技術の発信や国内外企業との交流・協業の推進など、創造性豊かな産業都市づくりが求められます。また、地域特性を活かした魅力ある商店街づくりや、ものづくり産業の維持・発展のため、多様な働き方に対応する環境の整備が必要です。

〇安全・安心

首都直下地震や気候変動による異常気象などに起因する未曾有の自然災害の可能性が指摘される中、巨大地震や大規模風水害への対応、災害時にも都市活動と生活が継続できる迅速な復興、複合災害への対応、地域力を活かした防災性・防犯性の向上、災害時でも活用できる都市インフラや緑、オープンスペースの整備が必要です。

〇交通

交通結節点としてポテンシャルを活かしつつ超高齢社会等に対応するため、都市を支える道路・交通体系、物流増への対応、新空港線をはじめとする公共交通ネットワークの充実が必要です。また、ウォーカブルな都市空間づくりを目指して、歩行者や自転車を主体とした交通環境づくりや、スマート化に対応した交通利便性の向上が求められます。

〇環境

SDGsやSociety5.0が提唱される中、脱炭素社会の構築に向けた環境都市づくりや最新技術を活用した持続可能な都市の実現が必要です。

〇水と緑

緑豊かな都市づくりを目指して、水と緑のネットワークづくりや、地域のニーズに応じた柔軟な公共空間（水辺や公園など）の維持・活用、自然環境が有する多様な機能を活かすグリーンインフラの整備の推進が必要です。

〇景観

景観に配慮した都市づくりを目指して、景観資源を活かした地域の個性づくりや日本の玄関口にふさわしい景観づくりが求められます。また、住み続けたい景観づくりが必要です。

3章 都市の将来像

1. 大田区の立ち位置

大田区の将来都市像を描くため、大田区の東京圏における立ち位置を上位計画等から整理します。

2. 将来都市像

大田区基本構想で掲げる将来像や区民参画の成果、将来の変化、現行都市計画マスタープランの理念、東京圏における大田区の役割などを踏まえ、将来都市像を設定します。

将来都市像（仮）

「住まう、働く、訪れる」
大田区らしい景色が人々を惹きつける

3. 都市づくりのテーマ

将来都市像を実現するためには、生活の中の人々の活動（ソフト施策）とそれを支える都市基盤整備などの都市計画と深く関わる取組（ハード施策）が一体となった展開が必要です。

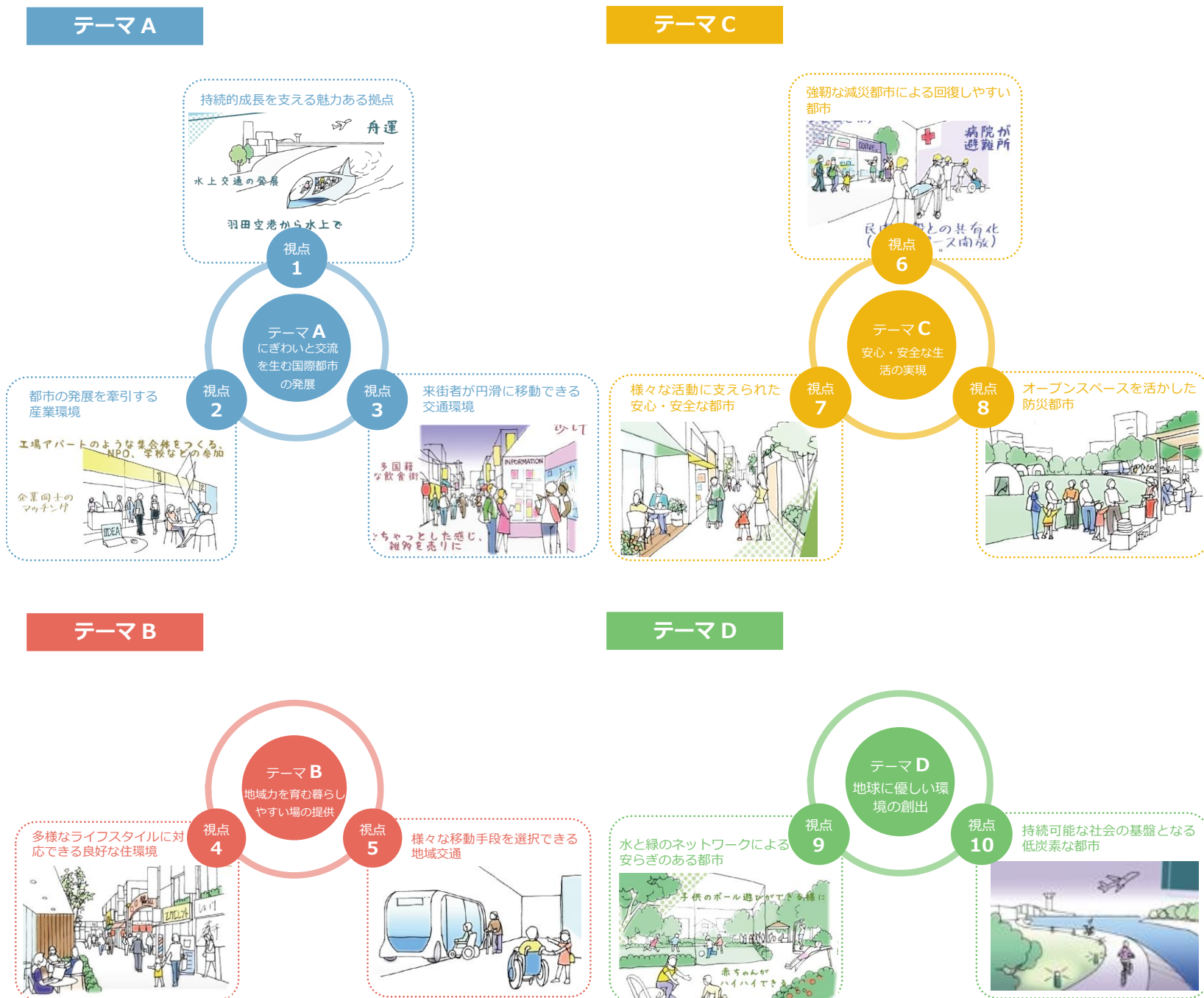
そこで、ソフト施策とハード施策を織り交ぜたテーマを設定し、テーマごとに目指す姿を設定し、実現に向けた取組を部門別方針で示します。

なお、テーマは、第2章の「都市づくりの課題」を解決するための重点項目を構成要素として整理し、それらを取りまとめて設定しました。テーマの構成要素は、第4章で示す部門別方針の各取組に対する横断的な視点として示すことで、戦略的な都市づくりを推進します。

また、SDGs（持続可能な開発目標）の概念を取り入れて都市づくりを進め、持続的な成長を確かなものとするのが重要です。都市づくりのテーマとSDGsの17目標の関連を意識しながら、都市づくりを進めていきます。

テーマ	視点
テーマA. にぎわいと交流を生む国際都市の発展	視点1 持続的な成長を支える魅力ある拠点 視点2 都市の発展を牽引する産業環境 視点3 来街者が円滑に移動できる交通環境
テーマB. 地域力を育む暮らしやすい場の提供	視点4 多様なライフスタイルに対応できる良好な住環境 視点5 様々な移動手段を選択できる地域交通
テーマC. 安全・安心な生活の実現	視点6 強靱な減災都市による回復しやすい都市 視点7 様々な活動に支えられた安心・安全な都市 視点8 オープンスペースを活かした防災都市
テーマD. 地球に優しい環境の創出	視点9 水と緑のネットワークによる安らぎのある都市 視点10 持続可能な社会の基盤となる低炭素な都市

〇 4つのテーマの目指す姿（イラスト作成中）



3章 都市の将来像

4. 目指すべき将来都市構造

(1) 将来都市構造の考え方

1) 広域視点と大田区視点の都市構造

将来都市像の実現に向けた目指すべき都市空間の骨格を示すため、大田区の特徴的な地形特性を踏まえながら、拠点域（面）、拠点（点）、連携軸（線）、交流網（線）を主な構成要素として、今後の都市づくり方針の前提となる、区のあるべき姿を示します。

将来都市構造は、東京圏における大田区の役割を整理した「東京圏視点での都市構造」と、区内の機能集積や拠点間交流などを整理した「大田区視点での都市構造」により構成されます。

2) 大田区の地形特性

将来都市構造の前提となる地形特性を示します。

エリア	地形特性
区の北西部 (台地部)	区の北西部（台地部）は、国分寺崖線及び南北崖線を境とした、武蔵野台地の東端にあたり、谷と丘が入り組んだ起伏のある地形となっている。関東大震災後住宅化が進み、田園調布、雪谷、久が原、馬込など、比較的緑の多い住宅地となっている。 昼夜間人口比率が低い（昼間と比較して夜間人口が多い）傾向にある。
区の中央部 (低地部)	区の中央部（低地部）は、多摩川、呑川、内川が運んできた土砂が堆積した、比較的平坦な地形となっている。東海道の街道筋だった地域では、交通の要所となり、古くから人の往来が多かった。大正期以降、中小工場が進出し、住宅や工場が密集する住工混在地域や商業地を形成している。 主要鉄道駅周辺や鉄道沿線エリア、工場の集積地などでは昼夜間人口比率が高い（夜間と比較して昼間人口が多い）傾向にある。
区の東部 (空港・臨海部)	区の東部（空港・臨海部）は、昭和の中頃から開始された埋立地からなる、平坦な地形となっている。空港をはじめトラックターミナルやコンテナふ頭、市場など物流施設のほか、工場団地、野鳥公園など都市機能施設が整備されている。 夜間人口はほとんどなく、東京圏の一翼を担うエリアの一つとなっている。

(2) 広域でみた都市構造

1) 東京圏における大田区の役割

・重要な交通結節点を有する大田区は、産業・交流の広域連携の一翼を担い、東京圏全体の成長に資する役割を持ちます。

2) 広域拠点域

・広域的な交通結節機能を有し、多様な都市機能の集積や広域的に機能が連なる地域を概念的に捉えた概ねの範囲を「広域拠点域」として設定します。

3) 広域連携軸

・都市間連携や交流の促進及び強化に資する広域交通ネットワークとして、鉄道及び広域幹線道路等を骨格とした「広域連携軸」を設定します。

4) 広域でみた目指すべき将来都市構造

- ・広域拠点域が、地域特性を活かし個性ある拠点を形成するとともに、拠点同士をつなぐネットワークの強化により有機的な連携を高めます。さらに、周辺都市と連携し東京圏全体の成長に寄与することで、大田区の更なる発展を目指します。
- ・4拠点域の連携については、広域連携軸を構成する道路・鉄道等の強化に加え、その他の道路や公共交通、さらに新技術を活用した移動方法など、最適な手段を検討します。

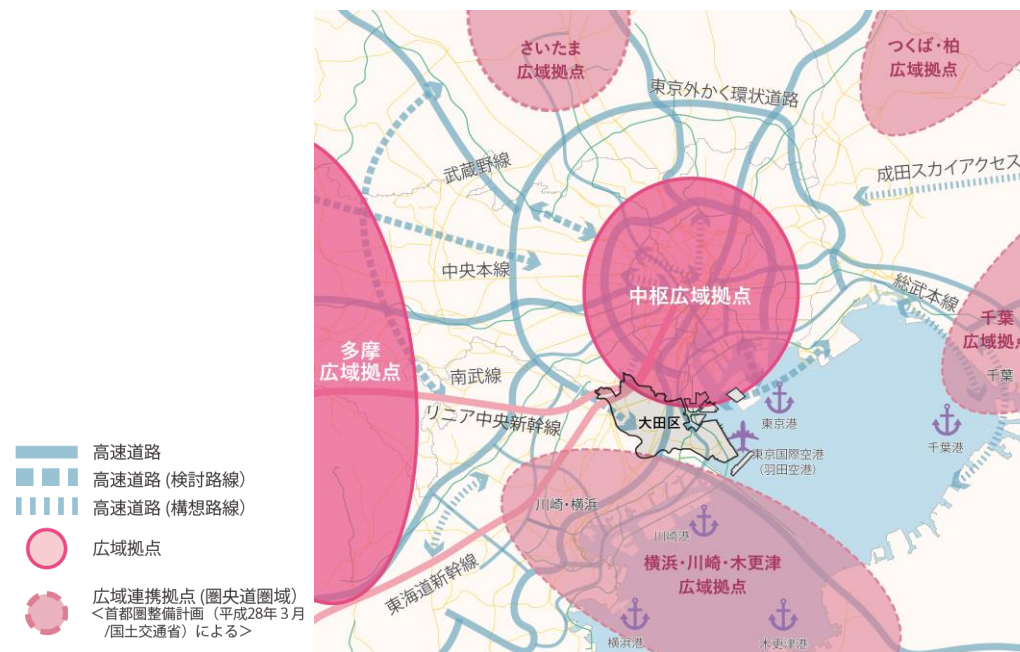


図 東京圏における大田区の役割
出典：東京都「都市づくりのグランドデザイン」(H29年)を基に作成

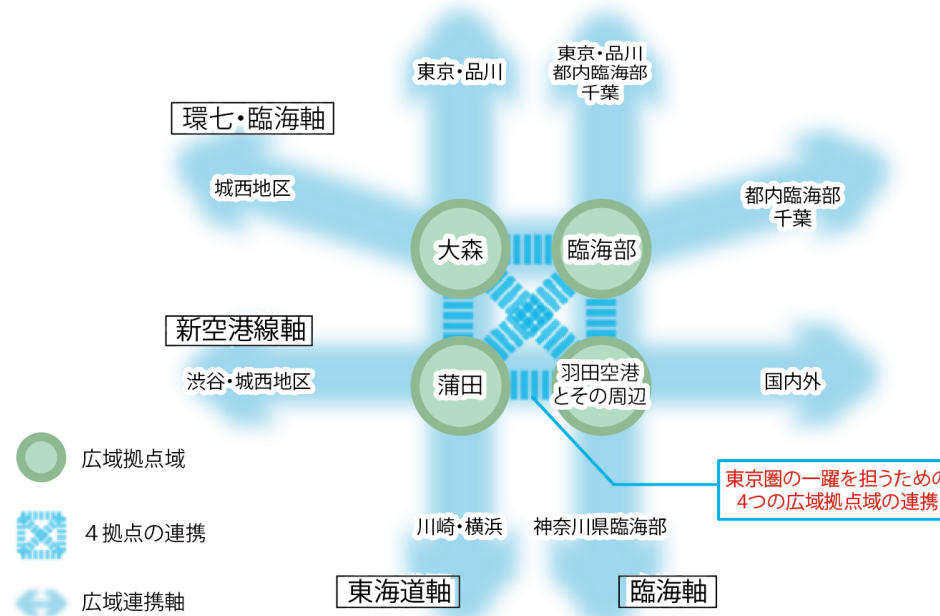


図 広域でみた将来都市構造
※現在検討中の案につき、変更の可能性がある

3章 都市の将来像

(3) 大田区でみた都市構造

1) 中心拠点・生活拠点

- ・ 主要な都市機能や多様な生活関連施設が集まり、地域特性を活かした都市づくりの強化・活性化を図る地域の概ねの範囲を「中心拠点」「生活拠点」として設定します。
- ・ 各拠点は、都市機能の集積や都市づくりの動向、関連計画における位置づけ、将来の変化などを考慮した上で設定します。また、各拠点の具体的な都市づくり方針は日常生活の核となる身近な地域との関わりと合わせて地域別方針に示します。

分類	考え方	拠点
中心拠点	商業・業務・公共など主要な都市機能、鉄道・バスなど主要交通の重要な結節機能などが集中して立地する地区。区内全域及び周辺区市との連携・交流の拠点となる。都市機能や生活関連施設などのさらなる集積を図り、広域連携・交流の役割を担う拠点として、都市づくりを強化していく。	大森駅周辺、蒲田・京急蒲田駅周辺、HANEDA GLOBAL WINGS（羽田グローバルウイングス）
生活拠点	住まう・働くなどの生活を支える多様な機能を有する、若しくは今後機能向上を図る地区。身近な地域同士など区内交流の拠点となる。	
	<p>地区ごとの生活関連施設の集積を進めるなど、地域特性を活かしながら、生活の中心となる拠点として維持・強化・活性化を行っていく。</p> <p>臨海部の玄関口としての立地特性を活かしながら、働く人の生活を支える拠点として、交通結節機能などを強化していく。</p>	<p>多摩川駅周辺、池上駅周辺、下丸子駅周辺、平和島駅周辺、雑色駅周辺、田園調布駅周辺、大岡山駅周辺、西馬込駅周辺、雪が谷大塚駅周辺、洗足池駅周辺、糀谷駅周辺、大鳥居駅周辺、穴守稲荷駅周辺</p> <p>流通センター駅周辺</p>

2) 拠点交流網

- ・ 区内における人やモノの交流促進に資する地域交通ネットワークとして、鉄道及び主要道路等を骨格とした「拠点交流網」を設定します。
- ・ 拠点交流網は、中心拠点や生活拠点を相互に交流させ、域内移動の円滑化や地域連携の活性化に資する機能を有します。また、広域連携軸及び周辺区市の拠点とも接続する、都市づくりを支える重要な交通網です。

3) 大田区でみた目指すべき将来都市構造

- ・ 各拠点の分類や地域特性に応じ、都市機能の集積等を活かした機能的でにぎわいのある拠点を形成していきます。
- ・ また、拠点交流網を使って拠点間を相互に交流させることで、身近な地域で誰もが活動しやすく快適に暮らすことのできる都市づくりを目指します。
- ・ 生活拠点は、都市計画マスタープランの定期的な振り返りの際に、都市づくりの進捗や機運の高まりなどを鑑み、位置づけの有無について検討するものとします。

(4) 全体将来都市構造

- ・ 大田区の地形特性、広域でみた将来都市構造、大田区でみた将来都市構造を重ね、全体将来都市構造として示します。

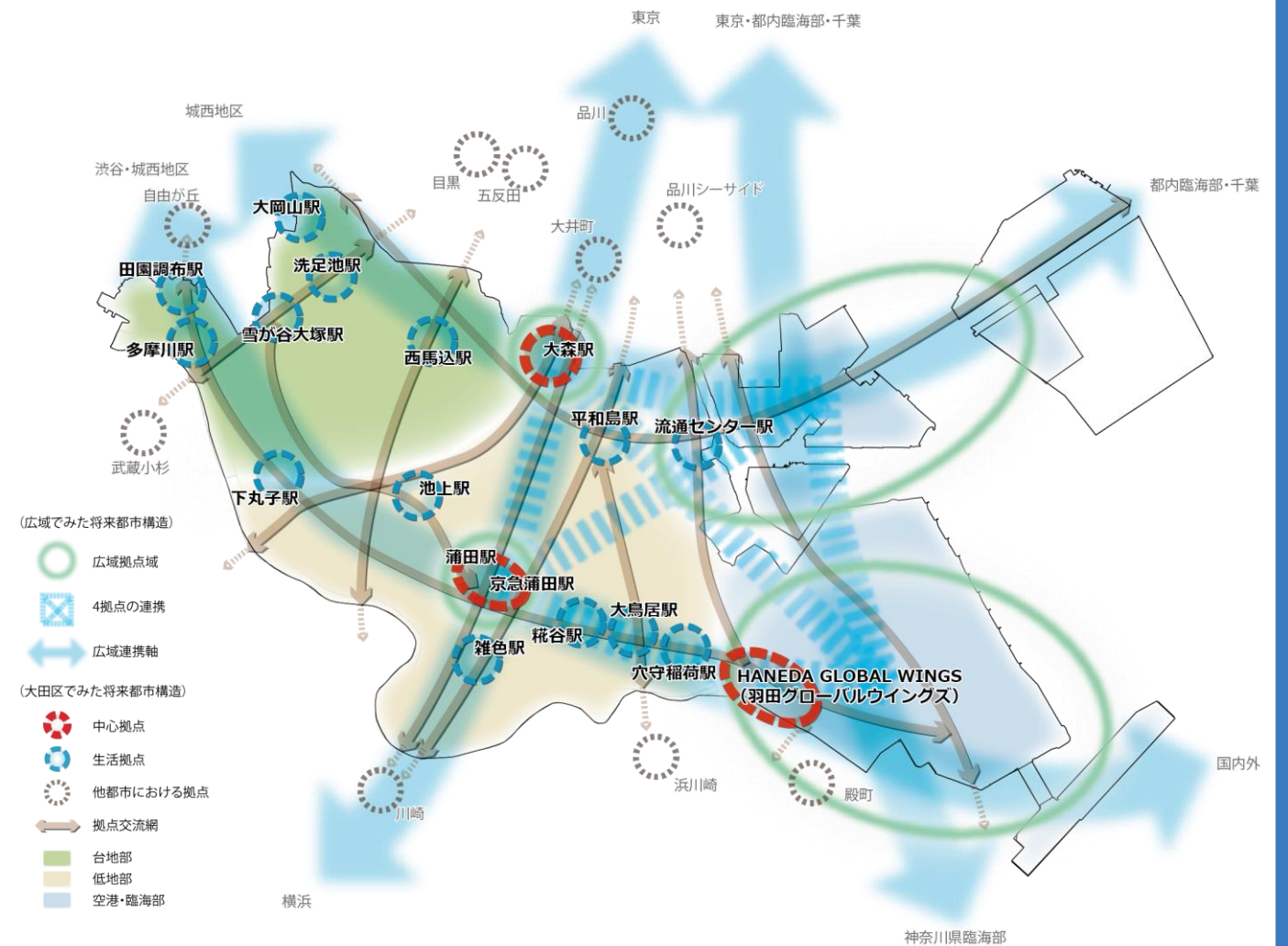


図 全体将来都市構造

※現在検討中の案につき、変更の可能性がある

3章 都市の将来像

5. 土地利用の誘導

(1) 大田区における土地利用の現況と課題

(2) 土地利用の誘導方針

大田区の地域特性に合わせ、現在の土地利用状況を維持しつつ、都市基盤とのバランスにも配慮しながら、多様なライフスタイルに対応する都市機能の集積やみどりの確保、都市づくりへの区民参画などに対応した土地利用を進め、住環境や産業環境の維持・向上を図ります。

① 住環境保全型市街地

緑豊かで比較的ゆったりとした良好な住宅市街地については、現在の住環境を保全します。

② 環境維持向上型市街地

耕地整理事業から戦後復興、高度経済成長とともに、都市基盤の利便性を活かし発展した中層や低層の建物が組合された住宅地については、現在の環境を維持しつつ、道路等の公共施設の整備などによる住環境の向上をめざします。

③ 住工調和型市街地

大田区の特徴であるものづくり工場と住宅が混在する市街地については、各地区の実情に応じた建築物の整備の誘導を図るとともに、新たな産業を取り込みながら、多様なライフスタイルに対応する、住宅とものづくり工場などの産業拠点が調和した市街地の形成をめざします。

④ (仮) 都市型産業市街地

都市基盤の整備とともに歴史的な変遷を経て、商店や工場が集積している市街地については、地区内の住宅や隣接する住宅との調和を図りながら、商業やものづくりなどの産業を活性化するため、さらなる都市機能の集積をめざします。

⑤ 幹線道路沿い市街地

幹線道路沿いの市街地については、交通の利便性を活かした産業系施設の立地、幹線道路の騒音や振動に配慮した環境づくり、災害時の避難路の確保や延焼遮断帯の形成などの観点から、幹線道路沿いにふさわしい市街地の形成をめざします。

⑥ 中心商業業務市街地

中心拠点として業務・商業系の土地利用が集中している蒲田駅及び大森駅周辺は、さらなる都市機能の強化を図りながら、ゆとりとにぎわいのある市街地形成を図るとともに、広域拠点域の活性化に寄与する都市づくりをめざします。

⑦ 工業維持促進型市街地

比較的まとまった規模の工場や物流施設が集積する市街地については、隣接する住宅との調和を図りながら、引続き、工場の立地や操業を継続できる環境の維持、促進をめざします。

⑧ 物流・流通ターミナル市街地

東京圏の一翼を担う港湾機能や物流機能が集積する市街地については、保有する機能の維持強化を図るとともに、広域拠点域の活性化に寄与する都市づくりをめざします。

⑨ 産業活力展開型市街地

工業系施設が集積する市街地については、ものづくり産業の操業環境の維持・向上を図るとともに、北側の港湾・物流機能が集積する市街地と連携しながら、広域拠点域の活性化に寄与する都市づくりをめざします。

⑩ 新産業創造発信型市街地

中心拠点である、羽田空港跡地第1ゾーン及び第2ゾーン周辺は、さらなる都市機能の強化を図りながら、羽田空港とともに広域拠点域の活性化に寄与する都市づくりをめざします。

⑪ (仮) テクノロジーの実装地区

広域拠点域の一角をなす令和島を含む中央防波堤埋立地は、既存臨海部の港湾機能との一体的な利用を推進するとともに、新たな機能の創出をめざします。



図 土地利用方針図(案)

※現在検討中の案につき、変更の可能性がある

4章 部門別方針

1. 部門構成

「都市づくりの現状と課題」や「全体方針」を前提に、都市計画と深く関わる大田区全体の取組について、事業に結びつく具体的な方針を示します。設定する部門は、拠点整備、交通、水と緑、防災・復興、住環境、産業、6部門です。第3章の「都市づくりのテーマ」と部門間の連携を図りつつ、将来都市像の実現に向けた取組を進めます。

2. 6つの部門（テーマと部門の関係表）

部門別方針	A		B		C			D		
	にぎわいと交流を生む国際都市の発展		地域力を育む暮らしやすい場の提供		安心・安全な生活の実現			地球に優しい環境の創出		
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
拠点整備部門										
1. 広域拠点域の都市づくり										
① 4つの広域拠点域の連携			○							
② 広域拠点域の拠点性の向上	●	○								
2. 中心拠点の都市づくり										
① にぎわいあふれる中心拠点の都市づくり	●		○							
3. 生活拠点の都市づくり										
① 個性が光る生活拠点の都市づくり	○			●	○					
② 観光資源を活用した生活拠点の魅力の向上	●			○						
4. 地区特性を活かし、複数の用途が融合した市街地整備の推進										
① 地区の生活を支える市街地整備	○			●						
② ワークスタイルの変化への対応		○		●						
③ 公共空間を活用したにぎわいづくり	○			●						
④ 公有地等の有効活用	○			●				○		
5. 環境に配慮した拠点整備										
① 都市開発の機会を捉えた環境都市づくり	○									●
② 効率的なエネルギー利用の促進	○									●
③ スマートシティ構築の推進	○									●
④ 都市開発における風の道の確保										●
交通部門										
1. 広域連携軸の形成										
① 広域連携軸を構成する道路網の整備	○		●							
② 広域連携軸を構成する鉄道等の整備	○		●							
2. 拠点交流網をはじめとした交通環境の整備										
① 拠点交流網をはじめとした道路網の整備				○	●	○				
② 拠点交流網を支える公共交通等の利便性向上	○			○	●					
③ 鉄道や道路の立体交差化の推進				○	●	○				
④ 歩行者や自転車を主体とした交通環境の整備				○	●					○
3. 安全安心に暮らせる交通環境の整備										
① 生活道路・狭あい道路の整備						○	●			
② 無電柱化の推進	○			○	○	○	●			
③ 都市基盤の維持更新			○	○	○	○	●			
④ 交通安全の推進				○			●			
4. 誰もが利用しやすい交通環境の整備										
① ユニバーサルデザインの推進			○	○	●					
5. 多様な移動手段の導入										
① 水上交通ネットワークの充実				○	○					○
② 先端技術に対応したハード・ソフトインフラの整備				○	○					○
③ 様々な移動を網羅した交通総合計画の策定				○	○					
6. 環境に配慮した交通環境の整備										
① 環境負荷の少ない移動手段の普及促進					○					●
② 環境に配慮した道路整備					○					●
水と緑部門										
1. 都市に潤いと安らぎをもたらす公園・緑地づくり										
① 拠点公園・緑地の整備	○							○		●
② 地域に根ざした公園・緑地の整備										●
③ 地域力を活かしたみどりづくり										●
④ 水と緑の保全・育成										●
2. 水辺を活かした親水施設の整備										
① 親水緑地の整備	○									●
② 河川の水質浄化対策の推進										●
3. 水と緑のネットワークづくり										
① 水と緑のネットワークの整備	○			○	○					●
4. グリーンインフラ事業を活用した都市づくり										
① 緑の多面的な機能の発揮	○							○		●
② 公共空間の多様な活用による賑わいの創出	○									●
5. 環境に配慮した水と緑の整備										
① 低炭素都市を目指す緑化の推進										○
② 緑化によるヒートアイランド対策										○

部門別方針	A		B		C			D		
	にぎわいと交流を生む国際都市の発展		地域力を育む暮らしやすい場の提供		安全・安心な生活の実現			地球に優しい環境の創出		
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
防災・復興部門										
1. 大規模災害に立ち向かう強靱な都市基盤や市街地整備										
① 骨格防災軸などの都市基盤整備			○			●			○	
② 木造住宅密集地域をはじめとした市街地整備・改善	○				○	●			○	
③ 建築物の不燃化・耐震化の促進					○	●				
④ 風水害・土砂災害に強い市街地の形成	○				○	●				
2. 災害時の都市機能の早期回復										
① 橋梁等ライフラインの耐震性の向上			○			●				
② 中心拠点や産業集積地域の機能継続・早期復旧	○	○				●				
③ 帰宅困難者対策	○					●				
④ 災害廃棄物対策						●				
⑤ 災害時水上輸送ネットワークの充実			○			●				
3. 地域防災力の向上										
① 地域防災活動の支援						○	●			
② 避難場所・避難所の拡充と分散避難対策						○	●		○	
4. 復興都市づくりの推進										
① 復興事前準備の推進	○					○				●
② 復興組織づくりの推進						○				●
5. 環境に配慮した防災都市づくり										
① 災害に備えたエネルギーの確保						○	○			●
住環境部門										
1. 住環境政策の推進										
① 地域の特性に対応した住環境の保全や改善	○					●		○		○
② 良好な住宅ストックの形成と住宅の質の維持・向上	○					●		○		
2. 多様なライフスタイルを支える都市機能の充実										
① 子育て、健康と生きがい、高齢者の視点を取り入れた都市づくり	○					●				○
② スポーツや健康のための環境整備と活性化	○					●				○
③ 公共施設の効果的・効率的な施設マネジメントの推進	○					●		○		
④ 地域との連携・協働による都市づくり						○		●		
3. 誰もが利用しやすい公共施設の整備										
① ユニバーサルデザインの推進	○					●		○		
4. 大田区らしい多彩なまちなみづくり										
① 景観都市づくり	○					●				
② 景観づくりのための仕組みづくり	○					●				
5. 地域防災力の向上										
① 地域防災活動の支援	○					○		●		
6. 環境性能の高い建築・都市づくり										
① 環境性能の高い建築物の誘導						○				○
② 建築物におけるエネルギー利用の効率化と災害への備え						○				○
③ 住環境のスマート化	○					○				○
産業部門										
1. 工業集積の維持・発展に向けた基盤づくり										
① 区内工場立地・換業環境整備	○	●			○					
② 産業支援施設の整備・維持管理	○	●			○					
③ 住環境と調和、共存する工場の建設の啓発	○	○			○					
2. 都市づくりと連携した商業の魅力創出										
① 商業集積によるまちの活性化	○	○			●					
② 都市づくりと連携した商店街の持続的発展	○	○			●					
3. 国際都市おたの観光都市づくり										
① 観光の推進に向けた受入環境づくり	●				○					
② 観光案内サイン等の整備	●				○					
4. イノベーション都市づくりの推進										
① 新たな産業・ビジネスを支える都市づくり	●	○			○					
5. 環境に配慮した産業都市づくり										
① ものづくり産業等と連携した環境都市づくり						○				○
② 企業立地の機会を捉えた自立性の高いエネルギーの導入	○							○		○

※左表では、都市づくりのテーマ及び視点と部門別の各方針の関連を示します。ソフト施策とハード施策を織り交ぜた都市づくりのテーマを実現するために、部門の枠組みを超えた施策の連携を推進します。例えばテーマA「にぎわいと交流を生む国際都市の発展」の実現に向けて、拠点整備部門（「広域拠点域の都市づくり」等）、産業部門（「工業集積の維持・発展に向けた基盤づくり」等）、交通部門（「広域連携軸の形成」等）を中心に横断的な取組を推進することを示しています。

都市づくりのテーマにかかる視点

- A1. 持続的成長を支える魅力ある拠点
- A2. 都市の発展を牽引する産業環境
- A3. 来街者が円滑に移動できる交通環境
- B4. 多様なライフスタイルに対応できる良好な住環境
- B5. 様々な移動手段を選択できる地域交通

- C6. 強靱な減災都市による回復しやすい都市
- C7. 様々な活動に支えられた安心・安全な都市
- C8. オープンスペースを活かした防災都市
- D9. 水と緑のネットワークによる安らぎのある都市
- D10. 持続可能な社会の基盤となる低炭素な都市

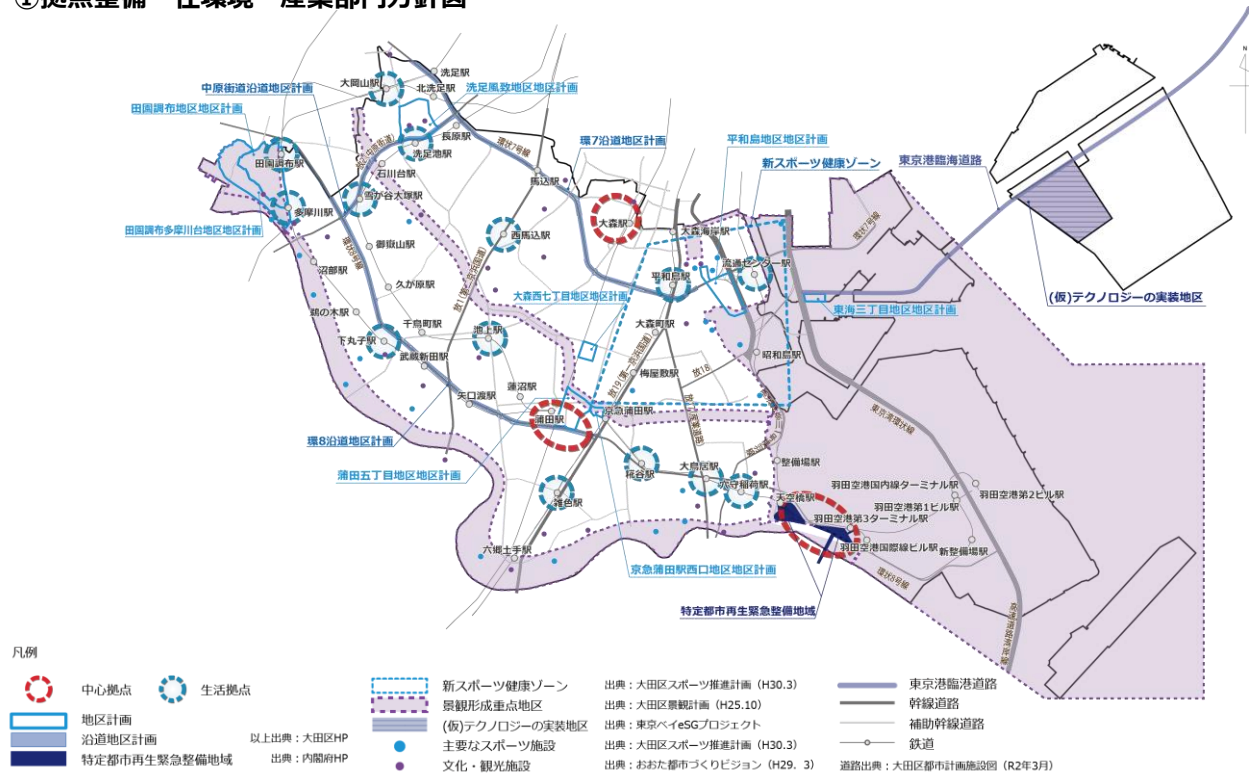
●：主に関わるテーマ
○：関連するテーマ

4章 部門別方針

2. 6つの部門（部門別方針図）

「拠点整備・住環境・産業部門方針図」、「交通部門方針図」、「水と緑部門方針図」、「防災・復興部門方針図」を示します。

①拠点整備・住環境・産業部門方針図



②交通部門方針図



③水と緑部門方針図



④防災・復興部門方針図



5章 地域別方針【検討中】

地域別方針は、4章までの大田区全体の都市づくりの方針を前提に、各地域の特性や課題を整理するとともに、地域別の都市づくりの方向性を示します。

区民等が主体的にまちづくり活動を行う際のガイドラインとしての役割も担うもので、区民、事業者、行政などの各主体が地域別方針を共有し、協働して取組むことで効果的な都市づくりを推進していくことができます。

1.地域区分の設定

地域区分は、区民の生活単位となじむような区域とし、区民が身近に感じられる単位とします。大田区では、区内を4つのエリアに分け、様々な地域行政に取り組みながら、区内18カ所ある特別出張所ごとの特色ある地域づくりを推進し、地域力を育む取り組みを進めています。そこで、地域区分を18特別出張所の所管区域を基に、人口や主たる土地利用等を踏まえ、7つの地域に設定します。

名称(仮称)	所管の行政区域	
	地域庁舎	特別出張所
台地部地域	調布	嶺町、田園調布、鶴の木、久が原、雪谷、千束
馬込・池上地域	大森	馬込、池上
大森地域	大森	大森西、入新井、新井宿
蒲田地域	蒲田	蒲田西、蒲田東
多摩川沿い地域	蒲田	六郷、矢口
糎谷・羽田地域	糎谷・羽田	大森東、糎谷、羽田
空港臨海部地域	大森、糎谷・羽田	入新井、羽田特別出張所における臨海部及び羽田空港エリア

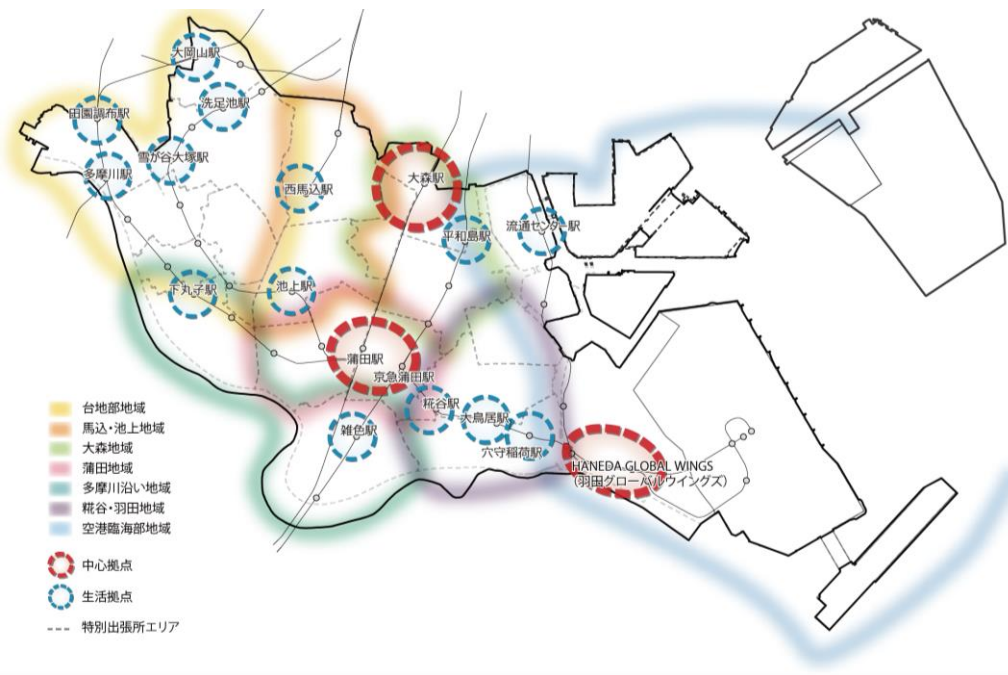


図 地域区分図

※現在検討中の案につき、変更の可能性がある

2.拠点別都市づくり方針

(1) 中心拠点の都市づくり

・それぞれの中心拠点の特色に合わせ、商業、産業、居住など様々な機能の集積を図り、様々な主体と連携しながら、質の高い生活支援機能や産業ビジネス機能を強化すると共に、ユニバーサルデザインの視点での空間づくりを進めます。

・にぎわいあふれる多文化都市として、国内外の来街者で活気あふれる拠点の形成を目指し、地域特性を活かし、飲食、物販、観光や業務などが集積した多様な交流を生む都市づくりを進めるとともに、多彩な表情を持つ魅力ある景観形成を図ります。

・国際都市おたにふさわしい魅力と活力ある都市環境の形成に向けて、それぞれの中心拠点が連携した都市づくりを進めます。

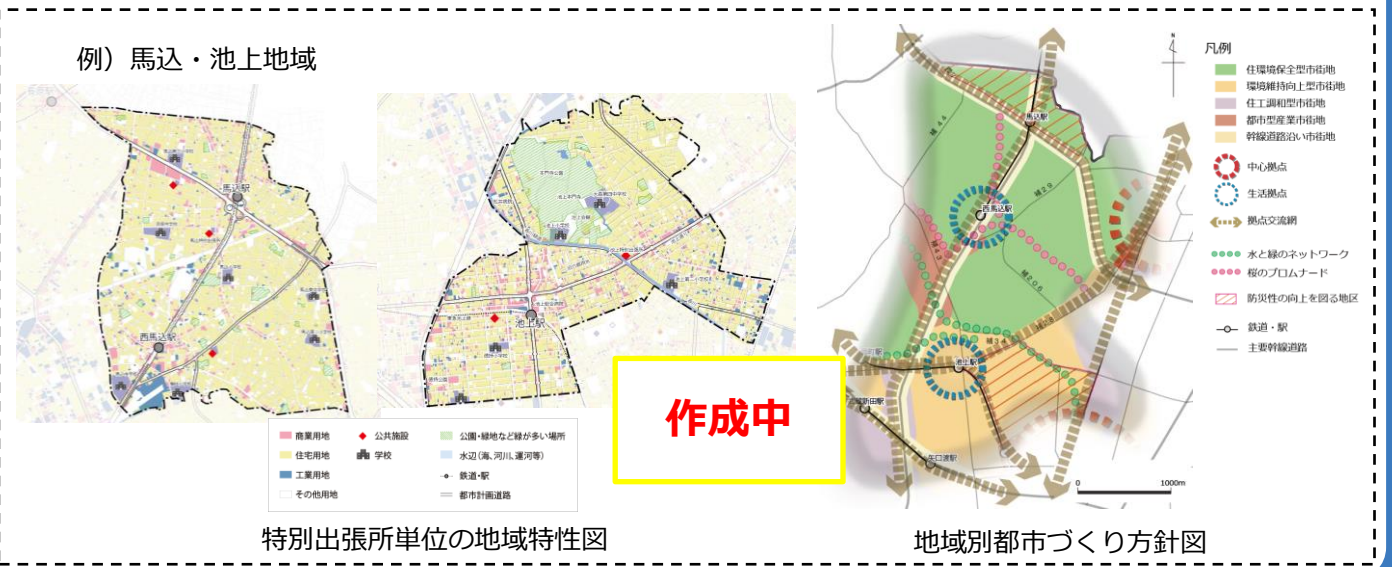
(2) 生活拠点の都市づくり

・通勤通学や買い物など普段の生活に欠かせない拠点としての機能に加え、地域の観光資源へのアクセスの玄関口としての機能強化を図るため、交通事業者をはじめとする様々な主体と連携して駅や駅周辺のユニバーサルのデザインの視点に基づき、利便性・快適性・安全性の向上を図ります。

・居住地域の生活拠点では、公共施設の効果的で効率的な配置を進めることで、生活拠点としての機能強化を図るとともに、生活支援施設などの集積を促し、商店街の持続的発展をはじめ、暮らしやすさの向上を図ります。

3.7つの地域の方針

各地域別に地域の特性・課題、土地利用方針、テーマ別の都市づくり方針を示します。



特別出張所単位の地域特性図

地域別都市づくり方針図

6章 都市づくりの実現に向けて【検討中】

部門別方針や地域別方針を踏まえ、将来都市像や都市づくりのテーマの実現に向けた方策を示します。

1. 都市づくりの推進に向けた取組み
2. 協働の都市づくりに向けて
3. 都市計画マスタープランの進行管理